

学校 教育 目標	『挑戦 夢 ふれあい まちにひかる上小キッズ』 【知】自分のよさや可能性に気づき、自らの意思で行動できる子を育てます。(夢・挑戦) 【徳】感動する心を大切にし、自分の将来に夢をもち、より豊かに生きようとする子を育てます。(夢) 【体】自分や人の生命を大切にし、健康でたくましい体をつくろうとする子を育てます。(挑戦) 【公】地域社会の中で自分と人とのかかわりを見つめ、共に生きようとする子を育てます。(ふれあい) 【開】国際人として、多様性を理解し、行動できる子を育てます。(ふれあい・挑戦)					
学校 概要	創立 59 周年	学校長 清水 浩一	副校長 鈴木 浩	2 学期制	一般学級: 12	個別支援学級: 7
	児童生徒数: 406 人 主な関係校: 上飯田中学校 飯田北いちよう小学校 (中和田中学校)					

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	上飯田中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
①主体的に学びに向かう力 ②多様な他者対話・協働する力 ③情報を正しく使いこなす力(情報モラル・情報リテラシー) ④多様性を理解し、人を大切にする力(共生・思いやり) ⑤感情を整え、自分を成長させる力(メタ認知・自己調整)	上飯田中学校 上飯田小学校 飯田北いちよう 小学校	基礎・基本を大切にし、地域とともに多様性を認める子 ・ブロック内授業交流会開催による小中一貫カリキュラムの推進をする。 ・児童生徒交流会を通して多文化の理解と発信をする。 ・泉ブロック人権教育推進地域校での講演会による地域理解と外国籍等児童生徒の理解を図る。

中期 取組 目標	◆基礎・基本の定着や個に応じた指導を充実させ、できる喜び、わかる楽しさを味わい、学力の向上を図ります。 ◆子ども一人ひとりが自分らしく生き生きと生活できる学校となるよう、居場所づくり・仲間づくりを進めます。 ◆地域の人々とのかかわりや地域での学びを通して、地域への感謝の気持ちや愛着を育むとともに、子どもの夢育てを支援します。 ◆心と体の健康づくりに関心をもち、望ましい生活習慣を身につける取組を進めます。 ◆目標を共有し、気持ちのそろった教職員集団による学校運営組織を確立します。
----------------	---

重点取組分野		具体的取組
知	個に応じた指導	①「互いに認め合い、安心して学び合える集団づくり」 ～人との関わりを大切に授業を目指して～という研究テーマのもと、誰もが安心して豊かに学ぶことができる学校を目指して子供を育てていく。 ②児童一人一人が自分の学力・能力に応じて学習課題や学習内容を選択し、主体的に学ぶことができるよう、子供の実態に基づいた個への支援、家庭学習の習慣の定着を図る。
担当	学力・授業力向上部	
徳	人権教育	①道徳教育の充実、各学年の人権週間の取組や横浜プログラムの実施などを通して、障がいのある児童への理解や多文化共生を含めた児童一人一人の児童の人権感覚を養う。 ②ペア学年や異学年間の交流を計画的に進め、すべての児童が互いに理解し、支え合い、共に生きていく態度の育成に努める。
担当	人権・国際・福祉部 道徳部	
体	健康教育	①健康診断や体力・運動能力調査等の結果を参考に、児童一人一人が自分の生活を見直し、望ましい運動習慣・生活習慣を身につけようとする姿勢を培う。 ②なわとび集会や、学年ごとの中休みや昼休みの遊びの充実等を通して、児童の目標に合わせた体力づくりを推進する。
担当	安全・保健・環境部 体育部	
公開	地域連携	①学校地域コーディネーターと連携し、学援隊やボランティアなど、地域の力を活用して、児童の安全管理と教育活動の充実を図る。 ②「上飯田中学校ブロック学校運営協議会」や「上飯田中ブロック・中和田中ブロック学校家庭地域連絡協議会」を通して、児童の健全育成を図る。
担当	教務部	
いじめへの対応		①月1回以上、いじめ防止対策委員会を開催し、常に情報共有を図り、いじめの未然防止、早期発見・早期対応など、組織的対応をおこなう。 ②Y-Pアセスメントを活用し、多面的な児童理解をしつつ、児童の社会的スキルを高めていく。
担当	児童指導・特別支援部	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①キャリアステージに応じた人材育成を充実させるとともに、密に情報共有・共通理解を図り、風通しの良い職場環境づくりを継続していく。 ②教職員の健康を維持し、教職員が誇りや使命感をもって生き生きと働き続けることができるようにするために、改変した日課表や精選した組織体制、行事等を基盤に、働き方改革とより充実した教育活動を実践する。
担当	教務部	
情報教育		①学年に応じたICTスキルの体系的育成 各学年で「基本操作 → 比較・整理 → 条件整理・説明 → 自律的選択」と段階的に力を伸ばすICTスキル育成に取り組む。 ②発達段階に合わせた情報モラル指導の充実 低学年は端末の扱い・撮影、中学年は出典・言葉遣い、高学年は個人情報・誤情報・AI活用など、学年の発達段階に応じた情報モラルを年間を通して指導する。
担当	情報部 児童指導・特別支援部	
		b8
担当		
		b9
担当		
		b10
担当		